

<sup>ならく</sup>  
「奈落」

これ以上無い、どん底にある状況を「奈落」とか「奈落の底」といいますが、この言葉は仏教由来の言葉です。地獄を表す「naraka:那落迦（ならか）」という言葉が転じて「奈落」となったものです。

「奈落」の意味である地獄ですが、地下にある牢獄で、苦しみが極まった世界という意味です。人の死後にその悪い報いを受ける場所というイメージが浸透しているのではないのでしょうか。

歌舞伎や芝居の舞台や花道<sup>はなみち</sup>の下にある空間を「奈落」といいます。回り舞台やせり出しの装置があったり、通路にもなっている場所です。劇場にもよりますが、江戸時代にはとてもじめじめとして薄暗い場所だったようです。

他にも、オペラやバレエなどの伴奏をオーケストラが行う、オーケストラピットの事を指す場合もあります。こちらも薄暗い上に、編成によっては非常に狭苦しくなるそうです。

舞台の下の「奈落」は、江戸時代には地下を掘って、回り舞台やせり出しの装置を人力で動かしていました。今でも様々な役割をする、いわゆる裏方さんが動く場所です。華やかに見える舞台も、「奈落」をはじめ、お客さんからは見えないところで働く沢山の方々によって支えられています。

人生を舞台として考えてみるとこの事は、私たちに様々な事を気づかせてくれます。

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

華やかな生活をしていても、いつ何があるかわからない、常なるものは何もない「諸行無常」の世の中です。

また、裏方の皆さんをはじめ、様々な人たちで支えられている舞台と同じように、私たちは様々な方々と出会い、その多くの力によって存在している。これを仏教では縁と言います。

地獄を表す「奈落」が、生きる為の様々な事を考えさせてくれます。

— 終 —